28　神韻霊峰　岡田紅陽　一面

写真　昭和十八年（一九四三）
本紙四五・四×五六・〇

岡田紅陽（一八九五～一九七二）は生涯にわたり富士山を撮影しつづけた写真家である。紅陽の撮影した富士山は、切手のみならず、旧五千円札および、現在の千円札の裏面デザインにも使用されており、我々は知らず知らずのうちにごく身近に接している。また、富士を通し、横山大観ほか様々な画家とも交流があった。大観は、紅陽の写真を制作の参考にすることもあったという。本作は昭和十八年に「神韻霊峰」と題し、昭和天皇に献上された作品と考えられ、富士の頂が白く輝く荘厳な姿は、大観の富士とも通じるものがある。

この写真は、七面山から撮影されたもの。七面山は、富士の山頂中央から朝日が昇る瞬間を撮影することが出来る写真家にとって重要な撮影スポットである。本作品も、富士山頂の後方から朝日が昇り、白い富士の頂が暗闇からまさに浮かび上がった瞬間をとらえている。紅陽は自らの著書のなかで「今まで写した原板は大小数万枚に及ぶも、一枚として同じ富士山は写っていない。まして会心作などは一枚も見当たらない。一秒の何分の一かの時間がどんなに尊いものかが分かってきた」（写真集『富士』求龍堂、一九七〇年）と語る。刻々と移り変わる時間のなか、まばたきさえも惜しんでつかんだ、つかの間の富士の姿である。

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

富士 ―山を写し、山に想う―
三の丸尚蔵館展覧会図録No.46

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社東京美術
翻訳　横溝廣子
発行　宮内庁
平成二十年三月二十二日発行

© 2008.The Museum of the Imperial Collections